

平成24年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	アジアと欧米における国際芸術シンポジウムから国際的美術教育への実践研究
------	-------------------------------------

研究代表者

氏名 朝野浩行	所属 芸術・スポーツ科学系 美術・書道講座	職名 准教授
------------	-----------------------------	-----------

研究分担者

氏名	所属	職名

【研究成果の概要】（文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度）

本研究では国際彫刻シンポジウムを軸として、アジアと欧米の2つの観点から国際的美術教育の探求および実践を行った。アジアにおいては2012年11月14日から12月15日にかけて台湾の新竹市で開催された「BenQ International Sculpture Symposium 2012」に参加して台湾での彫刻現地公開制作における個々の参加作家の仕事に対する姿勢や自らの表現を効果的にコミュニケーションが出来る人材育成の開発を探求した。欧米からの観点は、2012年7月31日から9月15日にかけてカナダのセントジョン市で開催された「Saint John International Sculpture Symposium 2012」に参加して欧米の美術教育の実践研究を行った。また、ドイツの著名な彫刻家であるJo Kley氏を本学に招き2013年2月1日から2月8日にかけて「Jo Kleyと学生たちの国際彫刻シンポジウム2013」を開催し、多数の学生たちがJo Kley氏と共に連携して彫刻公開制作を探求し、国際的視野を広め、「企画力開発力」、「進行管理力」、「交渉力」、「実行力」、「決断力」、「伝達力」、「国際交流力」といった様々な能力を習得できるような人材育成の開発を実践した。台湾とカナダの国際彫刻シンポジウムとヨーロッパの国際的彫刻家からの観点によって、国際彫刻シンポジウム（現地公開制作）が美術教育に深く関わりがあることが明確となった。「Jo Kleyと学生たちの国際彫刻シンポジウム2013」に参加した数多くの学生たちは彫刻公開制作期間に招聘彫刻家と積極的な企画補助から制作補助に関わることにより、「組織形成力」をはじめとした前述の様々な「力」を総合的に習得できる実践結果となった。そのことから、後の教員採用試験や企業採用試験に大きな自信を与え、卒業して各々の職場着任後も仕事に対して積極的な姿勢を保てる人材育成の教育開発となる大きな成果となった。この成果により今後は、美術における教科教育の国際的な展望を目標とする研究につなげられ、国際的美術教育の探求が進められる。現在、彫刻シンポジウム（現地公開制作）は世界各地の様々な国と地域で開催されている。このように世界中で開催されている国際彫刻シンポジウムが各国での教育機関で教材として活用されていることも明らかになってきた。アジアと欧米のみならず各国の美術教育の教育的効果から日本の各教育機関で活用できるような教材の開発へと発展できる研究であった。

研究成果発表方法

本研究成果を平成25年度の大学美術教育学会と日本美術教育学会で口頭発表および論文投稿をする予定である。